

I. 2. 大学院生の研究業績

<言語文化専攻>

博士前期課程

博士前期課程 1年

王 鈺

口頭発表：

- ・ 「中国人日本語学習者と日本語母語話者における多義動詞「切る」の意味構造分析—心理実験により意味分析の結果を検証する—」統計数理研究所言語系共同研究グループ研究発表会「言語と統計 2021（セミナーシリーズ No.16）」（大阪）2021年3月20日。

博士前期課程 2年

上田 直輝

口頭発表：

- ・ 「標準（高地）ドイツ語知識に基づく低地ドイツ語理解：非母語話者を被験者とするケーススタディ」大阪大学言語文化学会第57回大会（オンライン開催）2020年10月29日～2020年11月1日。

博士前期課程 2年

林 希和子

論文：

- ・ 「JSL 学習者の日本語実践における ICT ツールの使用状況—モバイル端末の利活用に関する質問紙調査報告—」『大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流』25.（大阪大学国際教育交流センター）pp.75-84. 2021年3月。（陳静怡氏、李雪氏、義永美央子先生との共同研究）

口頭発表：

- ・ 「JSL 学習者の日本語実践における ICT ツールの使用状況—モバイル端末の利活用に関するアンケート調査報告—」日语教学研究上海分会 2020 年度日本語教育と日本学研究国際シンポジウム（オンライン）2020年11月28日。（陳静怡氏、李雪氏との共同発表）

その他：

- ・ 公開講座 ゲストスピーカー 阪大院生ゼミナールカフェ vol.2 「Discovery! NIHONGO ～日本語学・日本語教育学の様々な視点～」（京阪電車なにわ橋駅アートエリア B1）2021年3月19日開催予定（金賢眞氏、寺井悠人氏との共同開催）

博士前期課程 2年

福島 玲枝

口頭発表：

- ・ ”Managing interaction in paired-speaking activity: topic development in storytelling among low-level proficiency learners” American Association for Applied Linguistics (AAAL) 2021 Annual Conference March 20-23, 2021

その他：

- ・ 「高校英語学習者におけるやりとり能力の育成：『予期せぬ発話に対する返答』の分析と会話技能指導の可能性に関する検討」（一般財団法人言語教育振興財団 令和2年度 研究助成）

博士前期課程 2年

LEE JOONGCHAN

口頭発表：

- ・ “Nationalism or Assimilation: The Ambivalence toward Japanization in Yang Sok-il’s *Blood and Bones*” 大阪大学言語文化学会第 57 回大会（於：大阪大学言語文化学会のウェブサイト）2020/10/29～11/1

その他：

- ・ 「大阪大学国際教育交流センター CIEE：2020 年度 IELTS メンター認定証」大阪大学国際教育交流センター Center for International Education and Exchange（於：大阪大学国際教育交流センター）2020/9
- ・ 「2020 年度 IIBC TOEIC AWARD OF EXCELLENCE (LR: 955 SW: 360)」一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会（於：東梅田駅前テストセンター、Osaka English Village）2021/2
- ・ CASEC Level AA 達成 株式会社教育測定研究所 2020/5

博士後期課程

博士後期課程 1年

浅野 真菜

口頭発表：

- ・ 「Exclusive Children in Japanese: Evidence from Disjunction in Subject Position」 Experiments in Linguistic Meaning 2020 Conference (University of Pennsylvania) 2020 年 9 月 16 日.
- ・ 「When Children Interpret Disjunction Exclusively」 The 45th Annual Boston University Conference on Language Development (Boston University) 2020 年 11 月 7 日.

博士後期課程 1年

太田 真実

口頭発表：

- ・ 「「移動する子ども」だった学生のアイデンティティ形成過程—中国にルーツを持つ 3 人のライフストーリーをもとに—」(年少者日本語教育研究フォーラム第 10 回) 2020 年 9 月 27 日.
- ・ 「複数言語環境で育つ子どものアイデンティティ形成過程—幼少期に来日した S の母語に着目して—」(多言語化現象研究会第 73 回) 2020 年 12 月 13 日.

博士後期課程 1年

岡田 茉弓

口頭発表：

- ・ 「ある日本語学校経営者と教職員とのコンフリクトとその解消-『学生』の役割に注目して-」第 25 回留学生教育学会研究大会(オンライン) 2020 年 9 月 19 日.

その他：

- ・ 活動費受給：2020 年 7 月～2021 年 2 月大阪大学超域イノベーション博士課程プログラム 2020 年度自主支援活動(満額支給)「超域イノベーションプログラムにおける多分野の共存をもとにした組織内コミュニケーションの活性化に関する試み」

博士後期課程 1年

徐 勤

口頭発表：

- ・ 「日本人中国語学習者の作文から見る接続詞の使用実態—出現頻度を中心に—」大阪大学言語文化学会第57回大会（大阪大学）2020年10月.
- ・ 「日本人中国語学習者の叙述文における言語的特徴の分析—MF/MD法を使って—」統計数理研究所言語系共同研究グループ2020年度第2回合同研究発表会（神戸大学）2021年3月.

博士後期課程 1年

田尾 俊輔

口頭発表：

- ・ 島田 広之, 田尾 俊輔, 小島 晋一郎「オンライン PBLによる社会課題解決の実践とその課題：—隠岐の島町での活動を通じて—」, 日本ソーシャル・イノベーション学会第2回年次大会, オンライン, 2020年11月1日.

その他：

・その他の所属

大阪大学博士課程教育リーディングプログラム・超域イノベーション博士課程プログラム（2018年10月～現在）

・ティーチング・フェロー（TF）

(1) 2020年度春～夏学期「大学授業開発論Ⅱ」, (2) 2020年度春～夏学期「学問への扉（Discovery Seminar：はじめてのリサーチ）」, (3) 2020年度夏学期「大学授業開発論Ⅰ」, (4) 2020年度秋学期「大学授業開発論Ⅰ」, (5) 2020年度秋～冬学期「大学授業開発論Ⅱ」, (6) 2020年度冬学期「大学授業開発論Ⅲ」（以上, 全学教育推進機構）

※上記(1),(3),(4),(5),(6)はFFPプログラム活動支援補助業務（2020年4月～2021年2月）の一環として.

・ティーチング・アシスタント（TA）

(1) 2020年度春～夏学期「メディア考現学／メディアの課題特講」（国際共創大学院学位プログラム推進機構）, (2) オンライン授業支援（全学教育推進機構, 2020年5月～2021年2月）

・事務補佐員S（大阪大学男女協働推進センター, 2020年11月～2021年3月）

・翻訳

(1) 佐藤 浩章, 根岸 千悠, 田尾 俊輔「ABC 学びのデザイン」, 2020年5月11日 (<https://blogs.ucl.ac.uk/abc-ld/abc-ld-resources-in-japanese/>)

(2) 佐藤 浩章, 杉森 公一（監訳）, 根岸 千悠, 田尾 俊輔（訳）「秋学期以降の15のシナリオ：—ソーシャル・ディスタンス時代における高等教育—」, 2020年7月13日 (<https://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/news/2020/07/15.html>)

・記事執筆

島田 広之, 田尾 俊輔, 小島 晋一郎「アクティビティ・プラスを超えた活動へ：—大学院生が住民と協働しながら離島・隠岐の島町でのまちづくりに関わる意義を求めて—」, 2020年11月5日 (<http://www.cbi.osaka-u.ac.jp/reports/アクティビティプラスを超えた活動へ—大学院生/>)

・話題提供

(1) 田尾 俊輔「『研究』について：—言語学の観点から—」, 2020年度春～夏学期授業「学問への扉（大学教員という仕事）」（第3回目授業）, 2020年5月13日.

- (2) 田尾 俊輔「『研究』について：一まちづくり系共同研究の観点から」, 2020年度春～夏学期授業「学問への扉 (大学教員という仕事)」 (第3回目授業), 2020年5月13日.
- ・中学生向けボランティア学習塾「隠岐塾」の開催 (隠岐塾 (島根県隠岐の島町現地スタッフ) & 阪大チーム (島田 広之, 田尾 俊輔, 小島 晋一郎, 花木 愛子) による共同開催 ※阪大チームはオンラインで参加)
 - (1) 第3回: 2020年6月22日～6月25日, (2) 第4回: 2020年8月3日～8月10日, (3) 火おこしバトル: 2020年10月10日, (4) 第5回: 2020年10月19日～10月23日, (5) 第6回: 2020年12月8日～12月11日, (6) 第7回: 2021年1月12日～1月15日, (7) 第8回: 2021年2月21日～2月26日.
 - ・活動費受給
大阪大学超域イノベーション博士課程プログラム 2020年度グループ型自主活動支援にて, 企画「公共圏としてのスナックの可能性を探る:一サイエンス・スナックの実践を通じて一」の採択 (猪口 絢子 (代表), 荒木 亮太郎, 北川 晋一, 鈴木 寛太郎, 田尾 俊輔, 藤本 森峰) .

博士後期課程1年

陳静怡

論文:

- ・「オンラインにおける言語学習の継続とそれに関わる動機づけ要因——バーチャル環境で学ぶ日本語学習者に対する縦断的調査から」『日語教育と日本学研究』pp.266-275. 2020年5月.
- ・「遠隔言語学習のプロセスにおけるオートノミーの発達 バーチャル学習環境で学ぶ日本語学習者に対する縦断的調査をもとに」『言語文化教育研究』第18巻. pp.82-103. 2020年12月.
- ・「JSL 学習者の日本語実践における ICT ツールの使用状況 —モバイル端末の利活用に関するアンケート調査報告—」『大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流』第25号. pp.75-83. 2021年3月.

口頭発表:

- ・「文脈の中の個人の視点からみた遠隔言語学習の動機づけ—あるオンラインの日本語学習者のケーススタディー」日本語教育学会秋季大会 (オンライン開催) 2020年11月.
- ・「JSL 学習者の日本語実践における ICT ツールの使用状況—モバイル端末の利用に対するアンケート調査報告」2020年度日本語教育と日本語学研究国際シンポジウム (オンライン開催) 2020年11月. (陳静怡、林希和子、李雪による共同発表)

博士後期課程1年

寺井 悠人

その他 (社会活動) :

- ・「法学系日本語学術論文の構成要素と展開パターン」阪大院生ゼミナールカフェ (vol.2) 「Discovery! NIHONGO ～日本語学・日本語教育学の様々な視点～」 (於: なにわ橋駅アートエリア B1・ラボカフェ) 2021年3月19日.

博士後期課程1年

藤田 郁

口頭発表:

- ・「“He triumphs; maybe, we shall stand alone”: Using Correspondence Analysis to Investigate Modal Adverbs in Tennyson’s Poems」 Japanese Association of Digital Humanities 2020 (Osaka University, online) 2020年11月21日.

その他：

- ・ 「DH Approaches “to Know” Tennyson”」 Korea-Japan Symposium on Digital Humanities (Dongguk University, Korea, online) 2020年11月29日.

博士後期課程2年

大井 良友

論文：

- ・ 「自動詞の例外的振る舞いに関する一考察」 『言語文化共同研究プロジェクト 2019 「認知・機能言語学 V」』 pp. 1-10. 2020年7月.

口頭発表：

- ・ 「On the Interpretations of English Cognate Object Constructions」 (ポスター発表) 日本英語学会第13回国際春季フォーラム (関西大学) 2020年5月8日.

博士後期課程2年

坂場 大道

論文：

- ・ 「意味論から見た「幸せ」」 『言語文化共同研究プロジェクト2019』 pp. 31-40. 2020年7月.

口頭発表：

- ・ 「感情形容詞「嬉しい」と「楽しい」の違い」 関西言語学会第45回大会 (立命館大学) 2020年6月13日.

博士後期課程2年

徐 玉

論文：

- ・ 「増村保造の映画『卍』におけるレズビアン表象—谷崎潤一郎の原作小説との比較から」 『〈文化〉の解読 (20) —文化と記憶』 大阪大学大学院言語文化研究科, pp. 11-22. 2020年7月.
- ・ 「女を見る女のまなざし—映画『華岡青洲の妻』における女同士の絆」 『映画研究』 第15号、日本映画学会、pp. 4-26. 2020年12月.

口頭発表：

- ・ 「愛と憎しみの絆—増村保造の『千羽鶴』 (1969) における女性たち」 日本映像学会第46回大会 (オンライン開催) 2020年9月27日.
- ・ 「『女であること』 (川島雄三 1958) にみる母性幻想とレズビアン感性」 日本映画学会第16回大会 (オンライン開催) 2020年12月5日.
- ・ 「母性幻想、同性愛、〈クィア〉な女優—戦後文芸映画『挽歌』、『女であること』をめぐって」 日本映像学会関西支部第89回研究会 (オンライン開催) 2020年12月26日.

博士後期課程2年

沈 吉穎

論文：

- ・ 「外国人高度人材受け入れ政策における操作 (マニピュレーション) に関する一考察—高度人材ポイント制を中心に—」 『社会言語学』 XX (「社会言語学」刊行会), pp. 53-81, 2020年11月.

- ・ 「『外国人高度人材』概念の意味変遷について」『2020年台湾日本語・日本文学研究国際シンポジウム—日本語文学研究の境界線—予稿集』pp.195-201. 2020年12月.
- ・ 沈吉穎・許俊卿・今村都「ビジネスエリアにおける協働的關係の構築—大阪ビジネスパークのエリアマネジメントを事例に—」(A consideration of building collaborative relationships in business area : From a case study of area management in Osaka Business Park) 『Co* Design』第9号(大阪大学COデザインセンター), pp.57-77. 2021年1月.

口頭発表:

- ・ 「『外国人高度人材』概念の意味変遷について」2020年台湾日本語・日本文学研究国際シンポジウム, 2020年12月.

その他:

- ・ 岡田菜弓、今村都、沈吉穎、藤本森峰、森川勇大「超域イノベーションプログラムにおける多分野の共存をもとにした組織内コミュニケーションの活性化に関する試み」超域イノベーション博士課程プログラムグループ型自主活動支援採択

博士後期課程2年

張 碩

論文:

- ・ 「福島原発事故をめぐる中国テレビメディアの報道研究 - 「日本大地震啓示録」の批判的談話分析を通して-」『年報カルチュラルスタディーズ』,カルチュラルスタディーズ学会, vol.8, pp.11-34, 2020年6月.
- ・ 「突発事件発生時における日中政府の表象 -新型コロナウイルス感染症についての記者会見を例に-」,『言語文化共同研究プロジェクト 2019 相互行為研究⑥—談話とダイバーシティー—』大阪大学言語文化研究科(大阪大学言語文化学会) pp. 79-88. 2020年7月.

口頭発表:

- ・ 張碩・王一瓊「中国人若年層の「個人意識」と「集団意識」の葛藤—コロナ禍における体験談に見るポジショニングを通して—」第45回社会言語科学会研究大会, 2021年3月14日.
- ・ 張碩「新型コロナウイルス感染症に関する記者会見に見られる厚生労働省の姿勢—PCR 検査の批判的談話研究の試み—」2020年度日本語教育と日本文学研究国際シンポジウム(上海同済大学オンライン発表) 2020年11月28日.

博士後期課程3年

後藤 多恵

論文:

- ・ 「緊急性を描写する日本語力の養成—災害報道のタスクを活用した日本語授業を事例として—」『同志社大学 日本語・日本文化研究』第18号(同志社大学 日本語・日本文化教育センター) pp. 63-76. 2021年3月.

博士後期課程3年

竹村 博恵

口頭発表:

- ・ 「日韓関係悪化の状況下で構築される在韓日本人女性のナショナル・アイデンティティに関する考察-2019年夏に韓国で起こった日本製品不買運動に関する語りの分析を通して-」日本質的心理学会第17回大会(オンライン開催) 2020年10月24日.

- ・ 「日韓関係悪化が在韓日本人女性たちのナショナル・アイデンティティの構築に及ぼす影響-2019年夏に韓国で起こった日本製品不買運動に関する語りの分析を通して-」 オンライン・カルチュラルスタディーズ学会 2020 (オンライン開催) 2020年11月28日.
- ・ 「在韓日本人女性の位置どりとアイデンティティ構築に日韓関係の悪化が及ぼす影響について-2019年夏に韓国で起こった日本製品不買運動に関する語りの分析を中心に-」 第45回社会言語科学会研究大会 (オンライン開催) 2021年3月15日.

博士後期課程3年

野瀬 由季子

論文:

- ・ 野瀬由季子・大山牧子・大谷晋也 「教師研修としての授業観察に対する現職日本語教師集団の目的意識——日本語学校の常勤及び非常勤集団へのインタビュー調査の質的分析——」 『日本語教育』176号 pp.48-63. 2020年8月.
- ・ 野瀬由季子・大山牧子・岩居弘樹 「継続的な正課外活動への参加を通じた学習と教育実習との関連性 —日本語教員養成課程受講生へのインタビュー調査から—」 『大学日本語教員養成課程研究協議会論集』第19号 pp.1-15. 2021年3月.

博士後期課程3年

Noran Magdy Mostafa

口頭発表:

- ・ 「名詞修飾節の習得をめぐる課題」 (2021年中東・北アフリカ日本語教育シンポジウム) 2021年3月24日.

博士後期課程3年

林 貴哉

論文:

- ・ 「日本の大学におけるタンデム学習の意義」 『JASAL Journal』 (日本自律学習学会) 1(1), pp. 104-128. 2020年6月. (共著: 脇坂真彩子・林貴哉・北川夏子・ヴォランスキ, バルトシュ・原田佳祐・蔡真彦).

口頭発表:

- ・ "Social Support for Vietnamese living in Japan under COVID-19", Mini-Symposium: Disaster, Trauma & Human services (立命館大学・オクラホマ大学 (オンライン開催)) 2020年11月12日. (共同発表: Ngoc Diep Duong, Emi Nogami, Takaya Hayashi) .

<言語社会専攻>

博士前期課程

博士後期課程

博士後期課程1年

CHANG YUTING (張瑜庭)

論文:

- ・ 「日本放送協会中文教育教材内容初探—以1979年度〈NHKラジオ中国語講座〉為例」 『第一屆華語教學發展史國際研討會論文集』 (国立清華大学_台湾) 2020年12月. pp.351-359.

博士後期課程1年

西村 僚之佑

口頭発表:

- ・ 「モンゴル語の格語尾における時間空間概念表示の意味役割に関する考察」 日本モンゴル学会 2020年度秋季大会 (大阪大学箕面キャンパス) 2020年11月21日.
なお、上記の大会にて日本モンゴル学会“50周年記念ひつじ”の作成を行いました。好評を頂きました。

博士後期課程2年

青山 瑞季

論文:

- ・ 「農民から見たカーロイ・ミハーイ像—ヘヴェシュ県を事例に—」 『ハンガリー研究 創刊号』 (大阪大学言語文化研究科ハンガリー語部会) 2021年3月. pp.277-304.

口頭発表:

- ・ 「戦間期ハンガリーにおける1918年革命の記憶をめぐり—考察」 ハプスブルク史研究会第1回例会 (オンライン) 2020年8月9日.

博士後期課程2年

宋 新亜

論文:

- ・ 「初期創造社の翻訳観の誕生: 郁達夫の旧制高校での留学経験をめぐって」 『野草』 105号 (中国文芸研究会) 2020年10月. pp.98-119.

口頭発表:

- ・ 「戦前日本中国語教育—以大阪外国语学校支那研究会的活动为中心」 在日中国語教育の再考 研究会 2021年2月14日.

博士後期課程3年

太田 匡亮

論文:

- ・ 「日本漢語教学模式 (日本の中国語教育モデル)」 『国際漢語教学模式研究 (国際中国語教育モデル研究)』 (中国教育部重点研究基地重大プロジェクトチーム) 2020年4月. pp.188-206. (執筆言語: 中国語)
- ・ 「中国語の連用修飾フレーズ“耐心(de)+VP”の日本語訳について」 『中文日訳の基礎的研究 (二)』 (日中言語文化出版社) 2021年3月. pp.3-35.

口頭発表:

- ・ 「日本で受けた中国語教育・中国語圏の中国語教育」 在日中国語教育の再考研究会 (大阪大学) 2021年2月14日.

その他:

- ・ 2021年3月21日 全球青年漢学家線上工作坊 (Online Workshop for Global Young Sinologists) 閉会式代表挨拶

<日本語・日本文化専攻>

博士前期課程

博士前期課程2年

バネルジー・アプルバ

口頭発表:

- ・ 「オンライン留学」日本語教育のニューノーマル 3rdAnnualConference on Japanese Language Education in South Asia (JLESA'20-21、Department of Asian Languages The English and Foreign Languages University in collaboration with The Japan Foundation, New Delhi) 2020年9月8日

博士後期課程

博士後期課程1年

YUANXIN (袁歆)

論文:

- ・ 「近代日本における「男性美」の実相—1910年代を中心に」『日本語・日本文化研究』第30号(大阪大学大学院言語文化研究科日本語・日本文化専攻) 2020年12月. pp.156-166.

口頭発表:

- ・ 「1920年代から1930年代までの女性用海水着の実態—露出をめぐる」日本比較文化学会全国大会第42回・2020年度国際学術大会(オンライン)2020年9月5日.
- ・ 「近代日本における女性用海水着の様相—『ダブル式海水着』をめぐる」国際服飾学会第39回総会・大会(オンライン)2020年9月12日.

博士後期課程2年

高子瑜

論文:

- ・ 「芥川龍之介と仏教説話:『井月句集』跋文における髑髏叩きエピソードの材源をめぐる」『日本語・日本文化研究』30(大阪大学大学院言語文化研究科日本語・日本文化専攻) 2020年12月. pp.1-13.

口頭発表:

- ・ 「傳抱石の絵画創作における日本画からの影響—彼の「蘇武牧羊図」と中村不折筆「蘇武之苦節」を中心に」日本語日本文化教育研究会第38回研究発表会(オンライン開催)2020年7月4日.

博士後期課程2年

ティルタラ・アリン・ガブリエル

論文:

- ・ 「近代日本彫刻史における仏師の位置付け:高村光雲の評価とその含意」『日本語・日本文化研究』(大阪大学言語文化研究科) 30巻 2020年12月. pp.167-178.

博士後期課程2年

平野 啓太

論文:

- ・ 「動詞連用形に接続する接尾辞における句の包摂と品詞性・意味の関係について」 『間谷論集第 15 集』 (日本語日本文化教育研究会編集委員会) 2021年3月. pp.67-88.

博士後期課程 2年

ヘッティヤーハンディ・ワッサラー・ディシルワ

その他:

- ・ 2020年度日本語日本文化教育研究会賞 (2021年3月13日公示 日本語日本文化教育研究会第39回で『間谷論集』第14号掲載の論文が対象)

博士後期課程 2年

李丹芸

口頭発表:

- ・ 「中国語の量詞「把」の教える方に関する研究—日中比較に基づいて」 在日中国語教育の再考研究会 (大阪大学) 2021年2月14日

博士後期課程 3年

SUVANAKOOTPATCHARAPHAN

論文:

- ・ 「タイ人の中級学習者のための「そして」の導入方法—対話データの分析から—」 『日本語教育方法研究会誌』 (日本語教育方法研究会) 2021年3月. pp.40-41.

口頭発表:

- ・ 「タイ人の中級学習者のための「そして」の導入方法—対話データの分析から—」 第56回日本語教育方法研究会 (オンライン開催) 2021年3月16日.

博士後期課程 3年

Toth Evelin Adrienn (トート・エヴェリン・アドリエン)

論文:

- ・ “Peasant Art Movement in Hokkaido in the 20th Century: Tokugawa Yoshichika’s Contribution.” (*Annals of “Dimitrie Cantemir” Christian University, Linguistics, Literature and Methodology of Teaching*) 2020年No.1. pp.142-157.
- ・ “„Az elbocsátott vad”: A medve jelentősége és a medveszertartás az ainu népcsoport életében (“Sending him away”: The Importance of Bears and the Bear Ceremony Among the Ainu People).” 『*Hibiki Japanese Journal* 1 卷』 2020年11月. pp.6-12.